

Efficiencyだけでなく Sufficiencyも高める社会へ

科学技術イノベーション2050
委員会の取り組み

1972年
ローマ・クラブの報告書
「成長の限界」

- 模範的エスケーション
- 人口増大
- 広がる環境汚染
- 天然資源の枯渇
- 都市化の進行
- 増大する社会不安
- 青少年の疎外感
- インフレーション
- 伝統的な価値の崩壊

2001年
MDGs



2009年
Planetary
Boundary

- Climate change (気候変動)
- Rate of biodiversity loss (生物多様性の損失率)
- Biogeochemical flow boundary (Nitrogen cycle (窒素循環), Phosphorus cycle (リン循環))
- Global freshwater use (グローバルな淡水の利用)
- Change in land use (土地利用の変化)
- Atmospheric aerosol loading (大気エアロソルの負荷)
- Chemical pollution (化学汚染)
- Ocean acidification (海洋酸性化)
- Stratospheric ozone depletion (オゾンホール)



2015年
SDGs



2016年
Society 5.0
(第5期科学技術基本計画)



経済発展と
社会的課題の解決を両立

2018年
Six
Transformations



出典: TW2050 - The World in 2050 (2018)
Transformations to Achieve the
Sustainable Development Goals
Report prepared by eWorld in 2050
Initiative, International Institute for
Applied Systems Analysis (IIASA),
Laxenburg, Austria. www.tw2050.org

スマートな都市、
快適で強靭な人間居住の実現

マルチAI
ネットワーク都市

持続可能で格差のない
水・食料・
エネルギーアクセスの実現

カーボンニュートラル

可視化されたエビデンスと
多様な価値観の許容に基づく
ガバナンスの実現

社会の人々との共創

2050年
STIによる
誰も取り残さない
共創社会

持続可能性と
Well-being

日本工学アカデミーSDGsシンポジウム —未来社会を科学者とデザインしよう—

日本工学アカデミー（EAJ）は、日本の工学技術の発展を期して、産・官・学の垣根をこえた研究者、科学者、技術者で組織されています。ノーベル賞を受賞した研究者も参加し、科学技術のSDGsに対する貢献を考え、未来社会をデザインするためのトークセッションを行います。

2022年11月5日(土) 14時30分-18時 (開場14:15) : ハイブリッド形式

アジアスタートアップオフィスMONO (テレコムセンタービル東棟14階)

<https://www.tokyo-teleport.co.jp/b/tel/>

■ 14:30-14:35 開会挨拶 中村 道治 (科学技術振興機構 名誉理事長)

■ 14:35-16:20 第1部：技術未来セッション

- ・ 天野 浩 (名古屋大学 教授) 「もし君がノーベル賞を受賞したら」
- ・ 川合真紀 (自然科学研究機構 機構長) 「STI for SDGsについての国連での議論」
- ・ 沖 大幹 (東京大学 教授) 「カーボンニュートラル社会の実現(STI2050委員会活動報告)」
- ・ パネルディスカッション (コーディネータ 松本 洋一郎 東京大学 名誉教授)

■ 16:30-17:55 第2部：EAJセッション (未来のあるべき姿とそれに向けた科学技術への期待)

- ・ 堂目卓生 (大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長)
「『誰一人取り残さない』社会を考える」
- ・ 関谷 毅 (大阪大学 教授) 「信頼される科学技術を人と共に創る」
- ・ 行木陽子 (中央大学 特任教授) 「多様性とイノベーション」
- ・ 有川太郎 (中央大学 教授) 「未来の都市をデザインする」
- ・ パネルディスカッション (コーディネータ 沖 大幹)

■ 17:55-18:00 閉会挨拶 菱田 公一 (明治大学 特任教授)

オンラインのお申し込みはこちら
になります。会場にいらっしゃる
場合、申し込みは不要です。



途中での入退場は問題ございません